

## 『臨床発達心理実践研究』執筆の手引き（2009年6月版）

\* 投稿に際して、原稿の枚数等の体裁については「『臨床発達心理実践研究』投稿論文原稿作成要領」をご覧ください。

### 1. 実践研究の目的：何のための「研究」だろうか？

いったい、なぜ「研究」が必要なのでしょう？「実践報告」とは何が違うのでしょうか？

以下の3点から考えてみます。

#### ①実践方法の共有

ある実践がうまくいったとき、どのような対象者にどのような方法によって支援したかが明確になっていると、類似の対象者にその方法を適用することが可能になります（再現可能性）。また逆に、うまくいかなかった実践も同様に参考になります。

この様に、実践の方法論を多くの臨床発達心理士が共有することによって、より効果的で効率的な支援が可能になってくると考えられます。そのためにも他の臨床発達心理士が、類似の事例に適用しようとしたとき再現可能となるよう、特に方法や結果において正確で的確な記述が必要になります。

#### ②実践の相対化・自己評価

実践はとかく独りよがりになりがちです。それを避けるために、自分の実践を再現可能な形で第三者に開示し、相対化し、評価を受けることの意義も大きいと思われれます。投稿の過程で審査者によるコメントが入り、それに応えて修正する、といったことを何回か行いながら、「こういった説明では伝わりにくいのか」「この結果はこういった解釈も可能か」「この対象者に、別のアプローチもあるかも知れない」など、新たな観点を見いだすことができ、自己の実践の相対化、自己洞察が行われます。

#### ③人間探求、発達の新たな理解に向けて

本資格では、臨床発達心理学を「人の生涯にわたる生物・心理・社会的側面からなる生活文脈の場の中で起こり得る、様々な兆候・問題・障害を包んだ（インクルージョンの視点を持った）時間的・発生的な過程から、人間の心的機構の解明を行い、また、そのことを通して、具体的な発達支援の方法論の検討を行う人間探究の領域」としています。臨床発達心理学が単なる実践技術の研究はもとより、「兆候・問題・障害」を通して、より深い「人間探究の領域」になりうる可能性を強調しています。実践研究によって、新たな人間理解、発達の理解を目指したいと考えています。

以下からは、実践研究を研究論文とするための方法について考えてみます。

### 2. 投稿論文の形式

論文は一般に、「要旨」、「問題」、「方法」、「結果」、「考察」、「謝辞」の各項目に分けられます。

#### 1) 要旨

読者が要旨を読むことで、手短かに論文の内容を把握できるためのものです。目的・対象および方法・結果・考察を端的にまとめます。最初はメモ書きでかまいません。最終的に文章に仕上げます。

#### 2) 問題（はじめに、問題と目的なども表記される）

読者に、この実践研究の意義と目的を理解してもらうために書く部分です。著者がこのテーマに注目

する理由、この実践研究に関連した分野で明らかにされている知見、この論文で検討すべき事柄および目的などについて記載します。

実際の執筆に際しては、「問題」は最初ではなくて、最後に書くことが多いようです。考察とバランスをつけながら、論文を完成させるためです。

### 3) 方法

方法では、対象児、指導期間、指導場所、教材（器具）、指導手続き、結果の整理方法などを客観的、具体的に記載します。対象児の項目では、アセスメント、保護者および本人からの主訴・依頼事項、本人の得意な点などの行動および心理特性などを含めます。必要に応じて文献の引用を行います。

この部分は、指導計画および指導実施時に確定しているので、最も書きやすい箇所であると考えられます。

★特に事例研究の場合、以下の点に考慮して方法を記述すると良いでしょう。（以下は、臨床発達心理士申請ガイドを参考にしています）

(1) 発達支援の対象者の概要（年齢、性別、生育歴、家族構成、支援・教育歴等。）

(2) 発達支援等を実施した機関・施設・場所

(3) 実施期間

(4) アセスメント（発達検査や行動観察、また環境・生態学的調査など）

(5) 総合所見

「(4) アセスメント」の結果から、

a. 対象者の発達（生理・医学的側面、心理・学習・教育的側面など）に関する 個体能力的観点からの実態や問題点

b. 対象者に関わる人々・環境（環境・社会・文化的側面（家族や教師・仲間など対人的環境、物理的環境）に関する実態や問題点

(6) 「(5) 総合所見」に基づく支援仮説、長期・短期支援目標の設定。支援計画の策定。

a. 対象者への支援

b. 対象者に関わる人々（家族や教師・仲間など）や環境への支援

### 4) 結果

この実践研究で得られた結果を読者に簡潔に分かりやすく示します。結果は本文で記述し、本文を補足するために、図や表を加えます。図表は結果を明快に示しますが、多くの紙面を使うので、数を少なくすることに努めます。

図表には、内容が一目で分かる題目や、理解を促す脚注を付けます。図の題目は図の下に、表のそれは表の上を書くのが一般的です。図の背景は白とし、目盛り線は縦横軸に限り、図の中に加えないようにしてください。

まず最初に結果をまとめることが考えられます。結果が確定すると、結果に対応した形で、論文のその他の部分をまとめることができます。

★特に事例研究の場合、以下の点に考慮して結果を記述すると良いでしょう。

支援などの経過を

- a. 対象者の時系列的変化
- b. 対象者に関わる人々（家族や教師・仲間など）や環境の時系列的変化

にできる限り分けて検討します。

また、変化のようすがわかるよう、わかりやすく段階を分けて記述します。

結果の記述に仕方は、できる限り量的記述（頻度データ）、質的記述（エピソード記述）を組み合わせることが望ましいといえます。質的記述だけでも結果の記述になり得ます。質的記述は、やまだ（1987）、麻生（1990）などを参考にしてください。

## 5) 考察

まず、結果から導き出すことができる結論を述べ、次にその根拠を述べます。このとき、「問題」で引用した先行研究の知見を参照し、結論を補強すると説得力が増します。考察を書くにあたって、この研究から主張できる知見・事実の範囲を常に意識し、過剰な表現やテーマから外れた展開を避けるように心がけます。考察の最後に、この研究の成果と課題を述べます。

段落毎ごとに一つのテーマについて述べます。また、最初か最後にその段落の結論を述べます。このようにすると、論旨が明確に読者に伝わります。

★特に事例研究の場合、以下の点に考慮して考察を記述すると良いでしょう。

支援の結果には、支援目標が達成された面と、達成されなかった面があるでしょう。これらから対象者の発達メカニズムを検討し、最初の評価より一層深い、また新たな観点による対象者理解・評価を行い、今後の支援の課題と方法について考えます。

### (1) 時系列的変化のメカニズムの検討

#### a. 対象者の時系列的変化のメカニズム：

対象者自身の生物学的変化・成長、支援の効果、およびそれらの相互作用などがどのように関連しあったのか。また、どの時期の、どのような操作が、どのメカニズムに効果をもたらしたかについて検討します。

#### b. 関わる人々・環境の時系列的変化のメカニズム：

対象者に関わる人々がどのように変化をしたのか、対象者に関わる人々や環境への支援の効果、およびその相互作用について検討します。

### (2) 目標設定・支援方法の妥当性、支援の効果の検討

(1) と関連させ、これらが妥当であったかを、支援の効果・限界について自己検証します。

### (3) 新たな理解・評価と今後の課題

支援をすることによって、対象者について更に深い理解、評価がなされたはずです。

例えば、「支援によって・・・のような面の伸び、変化は見られたが、・・・の様な面の困難さが認められた。」などです。これらから今後の課題・支援方法が導き出されると思われます。

(4) そのことを通して人間の発達メカニズムや、類似の事例について、先行研究と対照しながら、支援の一般化についても、考察することが望まれます。この点がなされている場合には「事例研究」としての意義が高いといえます。

## 6) 謝辞

研究を進める上で協力、支援をしてくれた人、助言をしてくれた人などの名前を挙げて感謝の意を表します。また、子ども達や保護者など研究に協力していただいた方（通常匿名）への感謝を述べることもあります。この部分は、論文に必須でなく、筆者が必要と判断する場合に含めます。

## 3. 文献と引用の仕方

### 1) 文献の書式

論文中に引用された文献は、論文の最後にまとめ、見出しは「文献」とします。文献は、日本語文献と外国語文献に分けず、著者名のアルファベット順に並べます。

\* 雑誌名および書名は斜体（イタリック体）で表記します。

出版地を出版社の前に記載します。

著者名はファミリーネーム、ファーストミドルネーム（イニシャルのみ）、で表記します。複数著者の場合の表示は、日本語文献では・を、外国語文献では&を使用します。

外国語文献の編書の場合、編者名の後に、編者が1人の場合はEd.、複数の場合はEds.を入れます。

①雑誌：著者名．（発行年）．表題．雑誌名，巻（必要な場合は号数），開始頁-終了頁．

\* 紀要の大学の所在地，学会論文集の開催大学名は省く。

- ・ 本郷一夫．（2006）．臨床発達心理士の役割と課題．*臨床発達心理実践研究*，**1**，159-164．
- ・ 秦野悦子．（1983）．指さし行動の発達の意義．*教育心理学研究*，**31**，255-264．
- ・ Denham, S. A. （1986）．Social cognition, prosocial behavior, and emotion in preschoolers : Contextual validation. *Child Development*，**57**，194-201．

②書籍：

日本語文献

著者名．（発行年）．書名（pp. 開始頁-終了頁）．出版地：出版社．

- ・ 大藪 泰．（2000）．*共同注意—新生児から2歳6ヵ月までの発達過程*．東京：川島書店．
- ・ 山上雅子．（2001）．*自閉症児の初期発達*．京都：ミネルヴァ書房．
- ・ 子安増生．（2000）．*心の理論*．東京：岩波書店．
- ・ 岡本夏木．（1982）．*子どもとことば*．東京：岩波書店．
- ・ 正木健雄．（1995）．*おかしいぞ子どもの体*．東京：大月書店．
- ・ 上野一彦・撫尾知信・飯長喜一郎．（1991）．*絵画語い発達検査*．東京：日本文化科学社．
- ・ 嶋津峯眞．（1985）．*新版K式発達検査法*．京都：ナカニシヤ出版．

外国語文献

- ・ Sroufe, L. A. （1996）．*Emotional development : The organization of emotional life in the early years*. New York : Cambridge University Press.
- ・ Tomasello, M. （1993）．On the interpersonal origins of self concept. In N. Neisser (Ed.), *The perceived self-ecological and interpersonal sources of self-knowledge* (pp.174-184), Cambridge : Cambridge University Press.
- ・ Zimmerman, B. J. （2002）．Theories of self-regulated learning and academic achievement. In B. J.

- Zimmerman, & D. H. Schunk (Eds.), *Self-regulated learning and academic achievement : Theoretical perspectives* (2nd ed.) (pp.1-37). Mahwah, New Jersey : Lawrence Erlbaum Associates.
- ・ Nader, K.O., Blake, D.D., & Kriegler, J.A. (1994). Instruction manual : *Clinician-administered PTSD scale, child and adolescent version*. White River Junction. VT: National Center for PTSD.
- ③ 分担執筆 : 著者名. (発行年). 引用部表題. 編者名 (編), 書名 (pp. 開始頁-終了頁). 出版地 : 出版社.
- ・ 鈴木典子・小此木加江. (2000). 性別とひきこもり. 狩野力八郎・近藤直司 (編), *青年のひきこもり* (pp.54-66). 東京 : 岩崎学術出版社.
  - ・ 松澤正子. (1999). 「注意」の発達. 正高信男 (編), *赤ちゃんの認識世界* (pp.115-156). 京都 : ミネルヴァ書房.
  - ・ 久原恵子. (1981). 形式的操作. 梅津八三・相良守次・宮城音弥・依田 新 (監修). *新版心理学事典* (pp.525-526). 東京 : 平凡社.
  - ・ 荻野美佐子・小林春美. (1997). コミュニケーションの発達. 井上健治・久保ゆかり (編), *子どもの社会的発達* (pp.185-204). 東京 : 東京大学出版会.
- ④ 翻訳書 : 原著者名. (発行年). 書名 (訳者名, 訳). 出版地 : 出版社 (原著者名. (発行年). 原書名. 出版地 : 出版社.)
- \* 原書名は斜体 (イタリック体) で表記します。  
著者名はファミリーネーム, ファースト/ミドルネーム (イニシャルのみ), で表記します。複数の表示は & を使用します。
- ・ Astington, J. W. (1995). *子どもはどのように心を発見するか* (松村暢隆, 訳). 東京 : 新曜社. (Astington, J. W. (1993). *The child's discovery of the mind*. Cambridge : Harvard University Press.)
  - ・ Garvey, C. (1980). 「ごっこ」の構造 (高橋たまき, 訳). 東京 : サイエンス社. (Garvey, C. (1977). *Play*. Cambridge Mass : Harvard University Press.)
  - ・ Lazarus, R. S., & Folkman, S. (1991). *ストレスの心理学* (本明 寛・春木 豊・織田正美, 監訳). 東京 : 実務教育出版. (Lazarus, R. S., & Folkman, S. (1984). *Stress, appraisal, and coping*. New York : Springer.)
- ⑤ 政府刊行物等 : 編集機関名. (出版年). 書名. 発行元.
- ・ 内閣府 (編). (2002). *国民生活白書 平成13年版 : 家族の暮らしと構造改革*. 東京 : ぎょうせい.
  - ・ 厚生労働省. (2004). *労働経済白書 (平成16年版)*. 東京 : ぎょうせい.
  - ・ 毎日新聞社人口問題調査会 (編). (1998). 「家族」の未来 : “ジェンダー” を超えて. 東京 : 毎日新聞社人口問題調査会.
  - ・ 大阪府児童虐待対策検討会議. (1990). *被虐待児の早期発見と援助のためのマニュアル*. 大阪 : 大阪府児童虐待対策検討会議.
- ⑥ 修士論文・博士論文 : 著者名. (論文提出年). 論文タイトル. 修士論文 (あるいは博士論文). ○○大学. 大学所在地.
- ・ 今井むつみ. (1997). 日本語主要助数詞の意味と用法. 博士論文. 東京大学. 東京.
- ⑦ 学会報告原稿 : 著者名. (発行年). 原稿タイトル. 学会報告要旨集名, 頁.
- ・ 辻あゆみ・高山佳子. (2003). 自閉症児におけるやりとりと模倣Ⅳ. *日本特殊教育学会第41回発表論文集*, 720.

- ・長崎 勤・松浦千春. (1999). 幼児は他者の欲求意図をどのように理解するか? *日本発達心理学会第10回大会論文集*, 433.
- ・黒田吉孝. (2000). 健常乳幼児の「バイバイ」の身振り獲得過程にみられる手の平を内に向けた「逆向きバイバイ」の出現について. *日本特殊教育学会第38回大会発表論文集*, 366.

#### ⑧電子メディア:

当該情報のタイトル, URL, アクセス年月日の順に記載します。

- ・文部科学省. (2002). 平成13年度の生徒指導上の諸問題の現状について (速報). [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/14/08/020820.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/14/08/020820.htm). 2008. 3. 21.
- ・中学校教育課程分科審議会. (1998). 第5回議事録. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/12/kyouiku/gijiroku/004/980501.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/kyouiku/gijiroku/004/980501.htm). 2005. 6. 1.

### 2) 本文中の引用の仕方

著者名の省略は避け, 全員の名前を明記します。ただし, 著者が3名以上の場合は初出時のみ全員の名前を明記し, その後は「(筆頭著者名)ほか」, 欧文の場合は「(筆頭著者名) et al.」と記します。著者が複数の場合, 著者名の連記は以下の例に従います。

#### ①文中の場合

【例】 吉田・鈴木 (1998) および我妻 (1999) は…。

滝口・宮沢・末松 (2005) は…。…滝口ほか (2005) …。

Davis & Sanderson (2000) は……。 (著者が2名の場合, &の前に (,) を入れません。)

Hala, Chandler, & Fritz (1991) は…。…Hala et al. (1982) によると…。 (著者が3名以上の場合, &の前に (,) を入れます。)

#### ②文末などの ( ) 内の場合

【例】 ……と報告されている (加藤・渡辺, 2004; 別府, 2003)。

……と報告されている (Okun, Melichar, & Hill, 1990)。

\*引用文献が複数の場合はセミコロン (;) で連ねます。

カッコ内の引用順は, 論文末にあげる引用文献の順に準じます。

#### ③電子メディアの場合

当該情報のタイトル, URL, アクセス年月日の順に記載します。

### 3) その他

文献と引用の仕方の詳細は, 日本発達心理学会機関誌編集委員会 (2005) の「論文原稿作成のための手引き」を参照してください。

#### <参考文献>

学会連合資格「臨床発達心理士」認定運営機構. (2006). 「臨床発達心理士」認定申請ガイド—2006年度版—. 学会連合資格「臨床発達心理士」認定運営機構.

日本発達心理学会機関誌編集委員会. (2005). 論文原稿作成のための手引き.

日本発達障害学会. (2004). 発達障害研究論文投稿マニュアル.

(2008年3月29日 常任編集委員会承認)